

第43回 テントウムシ

カコちゃん ショウくん かほくがたナルドレン

ひろ



背中の星の数で名前が決まる虫、テントウムシ。フタホシテントウ、ヨツボシテントウ、ナナホシテントウ、トホシテントウ、ジュウサンホシテントウ、シロジュウシホシテントウ、ニジュウヤホシテントウ、名前をみるだけでも面白いですね。親しみやすい形や色で、絵にも描きやすく、背中の星の数をみれば種類が分かり、名前もすぐに覚えられますので子供たちにも人気です。

ところが、最も普通のテントウムシという意味の名前がついているナミテントウは、実は星の数が決まっています。星がないものから19個の星があるものまで多くのバリエーションがあります。また地の色が黒で赤い星を持つものがあるかと思うと、赤地に黒い星があるものもあります。ですから、本当はテントウムシの種類が分かるためには、少し勉強が必要です。ナミテントウのバリエーション、これは遺伝的な多型と呼ばれるものです。基本となる4つの遺伝子タイプによる2つの組み合わせによって、さまざまな斑紋の形が決まってくるのだそうです(参考：<http://nemutou.fc2web.com/namitento/namitento.html>)。

次に、少しテントウムシの生態について書いておきます。テントウムシは種によって食べるものが違ってきます。この点で、畑で作物を作っている人は、2つのタイプのテントウムシがいることを知っています。害虫と益虫です。ナスの葉を食べるニジュウヤホシテントウは害虫ですが、ナナホシテントウは肉食性で、やっかいな野菜の害虫であるアブラムシをよく食べるので、わざわざ捕まえてきてビニールハウスの中に逃がしたりもします。とても小さなコクロヒメテントウやヒメカメノコテントウ

というテントウムシは、小さいので目に付きにくいのですが、草原や畑に棲んでいて、とてもたくさんのアブラムシを食べます。農業にとってはたいへん有用な昆虫です。

品種改良して飛べないテントウムシを作り、農薬の代わりに使用するようなことも行われています。こういう利用の方法を生物農薬といいます。100匹単位でカップに入った幼虫が『天敵製剤』として販売されています。一方、千葉県立成田西陵高校地域生物研究部の生徒たちが開発した方法はとてもユニークで、野外で捕まえたテントウムシの背中をホットボンドで仮止めして飛べなくしたものをビニールハウスに放すというもので、使用後はそのボンドをツメで剥がして野生に戻すというものです。たいへん自然にやさしい方法です。(文：高橋 久)